

秋田県埋蔵文化財センター年報

34

平成27年度

2016・6

秋田県埋蔵文化財センター

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の
「岩佩」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

序

秋田県埋蔵文化財センターが史跡払田柵跡の正面に開設されたのは、昭和56年の10月でした。当時は東北縦貫自動車道建設をはじめ、大型公共事業が拡大してゆく時期にあたり、それまで小規模な発掘調査で対応できていた県内の埋蔵文化財保護も大きく転換を迫られたなかでの設立でした。

あれから35年、県内のインフラ整備も一定の水準まで到達し、大型の開発事業も落ち着きました。そして、県内各地で行われてきた発掘調査によって、それまでには知り得なかった過去の秋田を知るための様々な資料が、膨大な量となって蓄積されました。秋田自動車道、日本海沿岸東北自動車道、各地のほ場整備事業、ダム建設事業等に伴う調査で得られた多くの資料によって、豊富なそして多彩な秋田の歴史・文化を語るための素地が整ってきたのです。

このように開発事業に先立つ発掘調査によって様々な資料が発見されてきましたが、県内には未だ知り得ない多くの歴史・文化を語る材料が眠っています。今年度も大館工業団地造成事業に係る片貝遺跡、成瀬ダム建設事業に係るトクラ遺跡、そして日本海沿岸東北自動車道本荘岩城道路付加車線工事に係る上谷地遺跡の発掘調査によって、新たな知見を得ることができました。片貝遺跡では西暦915年におきた十和田火山の噴火前後に営まれていた、県北米代川上流域での平安時代集落の様相が明らかになり、併せて行われた片貝家ノ下遺跡の確認調査では、国内に類例のない火山泥流に埋まった屋根の形状をとどめたままの平安時代住居が発見されました。また、トクラ遺跡は、これまで調査された中では県内最高標高の遺跡で、今回の調査で縄文時代早期の石器製作跡が見つかり、さらに上谷地遺跡では中世の城館に伴う竪穴状遺構が見つかりました。

本書にはこれら本年度に行われた発掘調査や、これまでの知見をもとに行われた企画展、セミナー、報告会、講演会、バスツアーなど、各種の公開・普及事業の内容を要覧としてまとめました。本書により当センターの事業内容を知っていただくとともに、今後とも変わらぬ御指導、御支援をお願い申しあげる次第です。

平成28年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所長 小林 克

目 次

序

目次

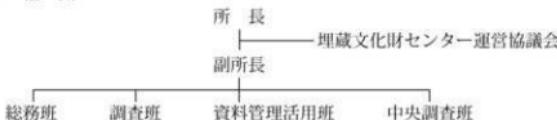
I	沿革	1
II	組織・施設	1
III	秋田県埋蔵文化財センター平成27年度の歩み	2
IV	事業の概要	3
1	発掘調査	3
2	確認調査	3
3	埋蔵文化財発掘調査	4
	(1)平成27年度秋田県内発掘調査遺跡	4
	(2)発掘調査概要	6
	トクラ遺跡	6
	上谷地遺跡	8
	片貝遺跡	10
4	刊行物一覧	12
5	活用・普及事業	14
	(1)秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会	14
	(2)遺跡見学会	15
	(3)学校(教育)サポート	16
	①セカンドスクール	16
	②ボランティア・職場体験(インターンシップ)	17
	③出前授業	17
	(4)主催事業	17
	①企画展	17
	②講演会	18
	③ふるさと考古学セミナー	19
	④出張展示	21
	⑤古代発見!バスツアー	22
	⑥ふるさと発掘 in 大館	24
	(5)共催・機関連携等による普及事業	26
	①農業科学館まつり	26
	②土器に生ける秋の草花展	27
	③あきた県庁出前講座	27
	④あきたスマートカラージ連携講座「発掘!考古ゼミ」	27
	(6)その他	28
	①所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績	28
	②センター施設の開放と展示	28
	③図書整理・図書一般公開	29
	(7)講演・研究論文等	29
6	運営協議会	30
V	平成27年度研修事業	33
1	研修受け入れ	33
2	職員研修	33
VI	職員名簿	35
	奥付	

I 沿革

昭和55年2月	秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表
昭和55年10月26日	建設工事開始
昭和56年8月31日	センター、第1収蔵庫完成
昭和56年10月1日	設置条例施行、職員発令、業務開始
昭和56年11月2日	落成記念式典挙行
平成5年1月	第2収蔵庫完成
平成10年4月2日	鷹巣町に秋田北分室開設
平成11年12月20日	秋田市に秋田整理室開設
平成12年4月4日	秋田整理室が秋田中央分室となる
平成13年4月2日	機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の3課体制となる
平成13年6月20日	秋田県甘瀬省文化交流事業により交流員の相互交流開始
平成14年3月2日	秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行
平成15年10月17日	秋田県甘瀬省文化交流事業磨嘴子遺跡合同発掘調査開始
平成15年10月30日	センター屋根、外壁、内部大規模改修工事
平成17年4月1日	男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設
平成20年3月31日	北調査課、中央調査課閉課
平成20年4月1日	機構改革により総務班・調査班・資料管理活用班・中央調査班の4班体制となる。
平成22年7月1日	秋田市に中央調査班移転
平成24年3月6日	秋田県埋蔵文化財センター設立30周年記念式典挙行

II 組織・施設

1 組織



2 施設の概要

本所（総務班・調査班・資料管理活用班）

所在地	〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20 TEL 0187-69-3331 FAX 0187-69-3330	敷地面積 6,962.000m ²
本所建物	鉄筋コンクリート2階建	1,527.304m ²
第1収蔵庫	鉄骨造平屋建	360.000m ²
第2収蔵庫	鉄骨造平屋建	297.680m ²
電気・ポンプ室	平屋建	59.780m ²

中央調査班

所在地	〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町11-1 TEL 018-893-3901 FAX 018-893-3899	建物 鉄筋コンクリート平屋建 2,141.000m ²

男鹿収蔵庫

所在地	〒010-0502 秋田県男鹿市船川港比詰字解ヶ沢200 敷地面積 55,521.000m ²	建物 鉄筋コンクリート3階建 7,524.360m ²

III 秋田県埋蔵文化財センター平成27年度の歩み

【平成27年】

- 4月 1日 平成27年度 秋田県埋蔵文化財センター新任式(中央調査班)
企画展「横手盆地の三万年」第1期開幕(～6/21)
- 2日 平成27年度 秋田県埋蔵文化財センター新任式(本所)
- 3日 第1回全体職員会
- 5月28日 平成27年度 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会役員会・総会(～5/29:秋田市)
- 6月 1日 トクラ遺跡確認調査開始(～6/12)、トクラ遺跡発掘調査開始(～10/29)
片貝遺跡発掘調査開始(～10/23)
- 18日 第1回埋蔵文化財センター運営協議会
- 24日 上谷地遺跡発掘調査開始(～8/12)
- 7月 4日 企画展「横手盆地の三万年」第II期開幕(～H28 3/6)
11日 第1回出張展示「にかほの古代・中世」開幕(～8/23:秋田県立図書館)
- 25日 第1回ふるさと考古学セミナー「大仙・横手の縄文文化」(会場:第1研修室)
- 8月 1日 片貝遺跡見学会
21日 埋蔵文化財センター職員技術研修会(会場:片貝遺跡、大館郷土博物館)
- 27日 大館市立西館小学校体験発掘(片貝遺跡)
- 29日 第2回出張展示「ふるさと村の地下から現れた古代」開幕(～10/12:近代美術館)
- 31日 第2回全体職員会
- 9月 1日 出張展示「発掘された大館の遺跡」開幕(～11/3:大館郷土博物館)
6日 講演会「縄文・弥生の道、古代の道」(会場:秋田県生涯学習センター)
- 12日 第2回ふるさと考古学セミナー「横手盆地の須恵器生産」(会場:近代美術館)
- 25日 第1回古代発見!バスツアー(県北コース)
県北コース:秋田駅→伊勢堂岱遺跡→片貝遺跡→上小阿仁村生涯学習センター→秋田駅
- 29日 第2回古代発見!バスツアー(県北コース)、片貝家ノ下遺跡確認調査開始(～11/24)
- 10月 2日 第3回古代発見!バスツアー(県南コース)
県南コース:秋田駅→旧池田氏庭園→埋蔵文化財センター→荒川鉱山跡・大盛館→秋田駅
- 4日 トクラ遺跡見学会
6日 第4回古代発見!バスツアー(県南コース)
- 10日 第3回出張展示「湯沢・雄勝の縄文文化」開幕(～11/8:湯沢生涯学習センター)
- 17日 第3回ふるさと考古学セミナー「湯沢・雄勝の縄文文化」(会場:湯沢生涯学習センター)
- 11月 5日 新波遺跡確認調査開始(～11/13)
6日 秋田大学COC事業発表会(会場:第1研修室)
- 14日 片貝家ノ下遺跡見学会(～11/15)

【平成28年】

- 2月 9日 第2回埋蔵文化財センター運営協議会
- 2月14日 講演会「十和田火山泥流と片貝家ノ下遺跡」(会場:大館市民文化会館)
- 3月13日 平成27年度 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会(会場:秋田県生涯学習センター)
- 3月25日 第3回全体職員会

3月30日 平成27年度 秋田県埋蔵文化財センター離任式(中央調査班)

3月31日 平成27年度 秋田県埋蔵文化財センター離任式(本所)

IV 事業の概要

1 発掘調査

平成27年度に秋田県埋蔵文化財センターが行った各事業別の発掘調査は以下のとおりである。

国土交通省関係

○成瀬ダム建設事業：トクラ遺跡

○日本海沿岸東北自動車道本荘岩城道路付加車線工事：上谷地遺跡

秋田県産業労働部関係

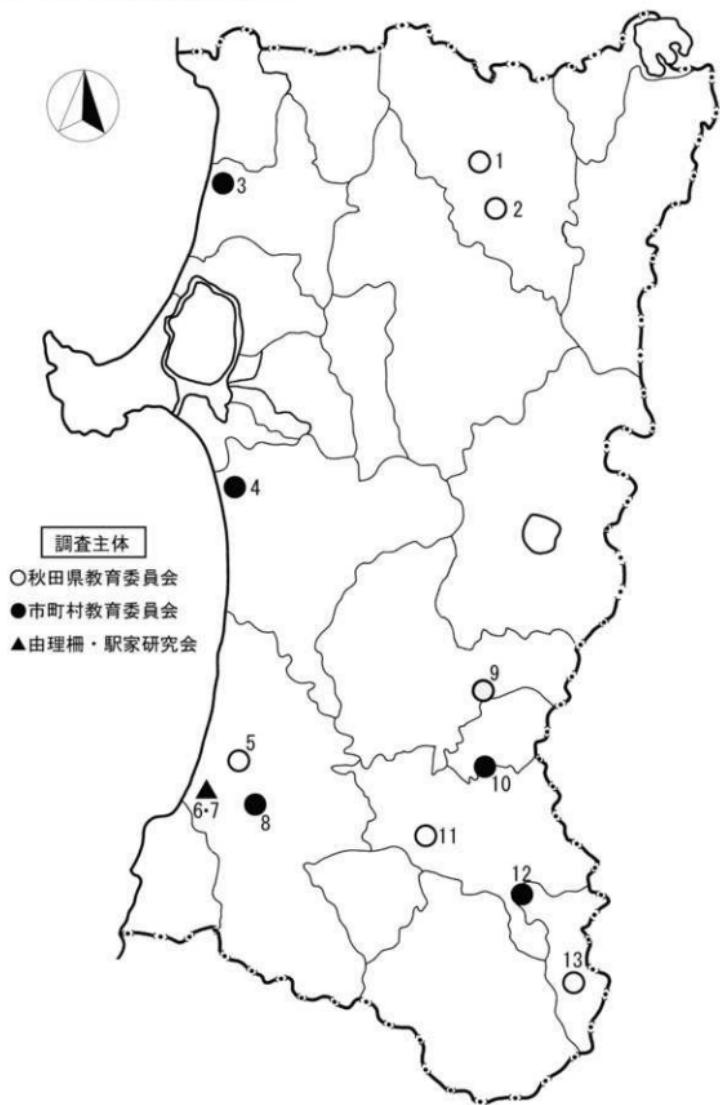
○大館工業団地造成事業：片貝遺跡

2 確認調査

	事業名	遺跡名・所在地	調査期間	調査担当
1	成瀬ダム建設事業	トクラ遺跡 (東成瀬村)	6月1日～6月12日	伊豆俊祐 赤星純平
2	雄物川中流部河川改修工事 (新波地区)	新波遺跡 (秋田市)	11月5日～11月13日	山村 剛 加藤朋夏
3	大館工業団地造成事業	片貝家ノ下遺跡 (大館市)	9月29日～11月24日	村上義直 山田祐子

3 埋蔵文化財発掘調査

(1) 平成27年度秋田県内発掘調査遺跡



平成27年度県内発掘調査遺跡位置図

平成27年度県内発掘調査遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積 (m ²)	調査主体者	事業名等	主な時代：性格
1	上飛山廻跡	大館市豊町	10/6～12/17	70	大館市教育委員会	公共下水道工事	平安・中世：集落跡・廻跡
2	片貝遺跡	大館市北内町達子字中台31-1ほか	5/11～10/23	18,000	秋田県教育委員会	大館工業団地造成	绳文・平安・中世：片貝廻跡・集落跡
3	平影野遺跡	能代市向能代字平影野	7/22～9/9	355	能代市教育委員会	市道建設	古代：集落跡
4	史跡秋田城跡 (第106次)	秋田市寺内焼山	5/11～10/13	534	秋田市教育委員会	学術調査	奈良・平安：城柵宮御跡
5	上谷地遺跡	由利本荘市土谷字小深田44-2ほか	6/24～8/12	850	秋田県教育委員会	日本海沿岸東北自動車道本荘岩城道路付加車線工事	绳文・古代・中世：散布地・城館跡
6	井岡遺跡 (第4次)	由利本荘市西日町西目字井岡	5/24～6/7	100	由理柵・駿家研究会	学術調査	奈良・平安：集落跡
7	井岡遺跡 (第5次)	由利本荘市西日町西目字井岡	10/10～10/25	130	由理柵・駿家研究会	学術調査	奈良・平安：集落跡
8	瀬沢城跡	由利本荘市前郷字瀬沢越	9/3～9/29	160	由利本荘市教育委員会	市営団地建設	江戸：城館跡
9	史跡弘田柵跡 (第149次)	大仙市弘田字仲谷地	6/8～8/7	191	秋田県教育委員会	学術調査	平安：城柵宮御跡
10	金沢城跡	横手市金沢中野字岩瀬沢	6/15～10/26	458	横手市教育委員会	学術調査	古代・中世：城館跡
11	船夷塚北遺跡	横手市雄物川町南形字葛巻	10/19～10/30	112	秋田県教育委員会	学術調査	奈良・平安：集落跡
12	上柿道路	東成瀬村田子内字菅生田神・字上柿	5/25～7/31	123	東成瀬村教育委員会	学術調査	绳文：集落跡
13	トクラ遺跡	東成瀬村椿川字トクラ4-1	6/1～10/29	4540	秋田県教育委員会	成瀬ダム建設事業	绳文：石器製作跡

*番号は4頁の図に対応する。太字の遺跡名は次頁以降に概要を掲載している遺跡。

(2) 発掘調査概要

トクラ遺跡

【調査要項】

所 在 地	秋田県雄勝郡東成瀬村椿川字トクラ4-1
調 査 期 間	平成27年6月1日~10月29日
調 査 面 積	4.540m ²
遺 跡 の 時 代	縄文時代（早期・前期）
遺 跡 の 性 格	石器製作跡、散布地
事 業 名	成瀬ダム建設事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局成瀬ダム工事事務所
調 査 担 当	加藤朋夏、赤星純平

【調査概要】

検 出 遺 構			主な出土遺物
縄文時代 石器集中部 3か所 土坑 3基			縄文時代 土器 石器
時期不明 土坑 2基 焼土遺構 6基 溝跡 3条			

トクラ遺跡は、栗駒山麓に源流をもつ成瀬川の支流、北ノ俣沢の右岸、標高約482mの段丘状平坦面に立地する。北ノ俣沢との比高は約20mである。推定される遺跡の範囲23,500m²のうち、今年度は東端部の4.540m²の発掘調査を行った。

今年度調査区のほぼ中央には、東から西へと沢水が流れている。遺物のほとんどが、この沢水流路よりも南側から出土したが、特に東端部の東西約15m、南北約5mの範囲に石器類が集中していた。この場所を「石器集中部」ととらえた。

石器集中部から出土した遺物は、大きさが1cmを超える石器類だけでも約2,000点を数える。石器製作時に生じる碎片のほか、トランシェ様石器や石籠、基部につまみが作り出された「押出型ポイント」等の石器成品、石器の素材となる剥片や石核等も含まれる。一部では土壤洗浄も行い、2mm以下の微細な碎片も数多く含まれていることを確認した。こうした状況から、石器集中部は縄文人が石器製作を行った場所と推定した。石器類のほとんどは頁岩を素材としている。礫面を残す資料は比較的小ないことから、遺跡内には、粗削りを行い手ごろな大きさの素材が持ち込まれたとみられる。

土器の出土は極端に少なく、今年度は総数で130点程度であった。比較的まとまった量の出土が認められたのは、貝殻腹縁文を有する縄文時代早期中葉のものである。このほか、胎土に纖維痕のあるものが僅かに出土している。土器の時期と石器の形態的特徴を考え合わせれば、この地で石器製作が行われていたのは、最も幅広く見積もっても、縄文時代早期中葉から前期の間と考えられる。

今年度の調査では、石器集中部以外に縄文時代の確実な生活の痕跡は発見できなかった。土坑や焼土遺構等、石器集中以外の検出遺構は、いずれも時期不明である。こうした状況から、今年度調査を実施したトクラ遺跡の東端部は、何らかの目的でこの地を訪れた縄文人が一時的に滞在し、石器製作等を行ったキャンプ地だったと考えられる。



遺跡遠景(東から)



石器集中部から出土した
大型のトランシェ様石器
(南西から)



まとまって出土した早期
中葉の土器片(南東から)

かみ や ち
上谷地遺跡

【調査要項】

所 在 地	秋田県由利本荘市土谷字小深田44-2外
調 査 期 間	平成27年6月24日～8月12日
調 査 面 積	850m ²
遺 跡 の 時 代	縄文時代、平安時代、中世
遺 跡 の 性 格	散布地（縄文時代・平安時代）、城館跡（中世）
事 業 名	日本海沿岸東北自動車道本荘岩城道路付加車線工事
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所
調 査 担 当	栗澤光男、伊豆俊祐

【調査概要】

検 出 遺 構				主 な 出 土 遺 物
中 世	竪穴状遺構	11 基	土手跡	1 条
	土坑	4 基	道路跡	1 条
	焼土遺構	1 基	柱穴様ピット	9 基
	溝跡	2 条		

上谷地遺跡は、JR羽越本線羽後本荘駅の北東約1.5kmに位置し、標高20m台の丘陵地とその西側の標高7～8mの水田地帯に立地している。遺跡は過去に数次にわたり調査されており、今回の調査区は遺跡東側の丘陵西端部にあたる。調査区西線を日本海沿岸東北自動車道が南北に通っている。

調査の結果、竪穴状遺構、土坑、焼土遺構、溝跡、土手跡、道路跡、柱穴様ピットと、縄文時代の土器・石器、平安時代の土師器・須恵器、中世～近世の陶器等が少量見つかった。

竪穴状遺構は、調査区中央部をほぼ南北に延びる斜面及び帶郭状の平坦面を利用して造られている。これらは何回かの建て替えによって重複しており、その平面形は長方形を基調とするものと推測される。また、斜面を削って壁としたその下に溝があるものと無いものがある。大きさは残りの良いもので長さ4.97m、幅2.61mである。土坑と溝跡は、調査区東側と南側で見つかった。土坑は、大きさが長さ1.21～1.97m、幅0.46～1.28mで、平面形は梢円形を呈している。溝跡はいずれも北西～南東を向いており、大きさは東側の溝跡が長さ5.23m、幅0.26mで、南側の溝跡が長さ3.57m、幅0.25mである。土手跡は、北西～南西を向いており、大きさは長さ2.21m、幅0.60m、高さ0.20mであった。道路跡は、北東～南西を向いており、長さ22m、幅2.4mである。この道路跡は調査区中央部付近の竪穴状遺構を横切って造られており、相対的に後出のものである。

以上、今回の調査区は、遺構内出土炭化物の放射性炭素年代測定結果等から、15世紀中頃を中心におられた主に竪穴状遺構等から成る小規模な中世城館の一部と考えられる。また、縄文時代、平安時代、近世の遺物も出土し、これらの時代にも利用されたことも判明した。



遺跡遠景(西から)

*由理樹・駅家研究会提供



調査区全景

(西から)



縫穴状遺構

(北から)

かたかい 片貝遺跡

【調査要項】

所 在 地	秋田県大館市比内町達子字中台31-1ほか
調 査 期 間	平成27年5月11日~10月23日
調 査 面 積	18,000m ²
遺 跡 の 時 代	縄文時代 平安時代 中世
遺 跡 の 性 格	縄文時代:狩獵場跡 平安時代:集落跡 中世:集落跡
事 業 名	大館工業団地造成事業
事業関係機関	秋田県産業労働部
調 査 担 当	宇田川浩一、村上義直、関向昌之、高橋忠彦、山田祐子、巴亜子

【調査概要】

検 出 遺 構		主な出土遺物	
縄文時代	陥し穴状遺構 33基		縄文時代
平安時代	竪穴建物跡 14棟	掘立柱建物跡 2棟	土器 石器
	土坑 10基	柵列跡 3条	平安時代
中世	掘立柱建物跡 1棟		土師器 須恵器 刀子
時期不明	柱穴様ピット 73基		土製垂飾品

片貝遺跡は、米代川中流域、大館盆地を流れる米代川の支流引次川と犀川に挟まれた台地縁辺部、標高67m程に立地する。南西700mの引次川が造る自然堤防には、片貝家ノ下遺跡がある。

調査の結果、33基の陥し穴状遺構が造られ狩獵場として利用された縄文時代と、14棟の竪穴建物跡から成る集落が営まれた平安時代との複合遺跡であることが分かった。

縄文時代の陥し穴状遺構は、長楕円形や溝状の細長い平面形とV字状の断面を持つ。長軸を同一方向にそろえ、何基かまとめて、地形の要所に配置されている。

平安時代には、台地の北西縁に竪穴建物跡がまとまり集落を形成する。これら竪穴建物跡の時期は、十和田a火山灰降下前と後に分かれる。噴火前に11棟、噴火後に3棟の竪穴建物が造られていた。

十和田噴火以前に造られた1棟の竪穴建物跡から「寺」の字が書かれた墨書き土器が出土した。米代川流域では北秋田市胡桃館遺跡や鹿角市一本杉遺跡・小平遺跡に続く4例目の発見である。また、墨書きには赤い墨も正在している。併せて多くの灯明皿が出土した。

他に、鍛冶炉用の輪羽口がカマドの支脚として転用されていた。大館盆地を含めて米代川中流域での製鉄が始まることから、能代側から持ち込まれたのか、それとも当時は陸奥国だった鹿角側から持ち込まれたのかを検討する必要がある。

「寺」の墨書きが出土した竪穴建物跡に隣接した2棟の建物からは、須恵器破片を転用した漆パレットや赤色顔料用パレット、刀子が出土した。住人は識字層であり、役入か仏教に関係すると思われる。片貝遺跡は、律令施行域の影響を受けた集落であることが分かった。



調査区遠景
(西側上空から)



竪穴建物跡のカマド周り
から出土した土器類
(北から)



竪穴建物跡出土墨書土器
'寺'

4 刊行物一覧

遺跡名	貝保遺跡	発掘調査年	25・26年度	発行年月	27年9月	
書名	秋田県文化財調査報告書第499集 貝保遺跡（第2次）—地方道路等整備事業（建設）主要地方道秋田八郎潟線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—					
内 容	遺跡の時代	縄文時代 奈良時代 平安時代 江戸時代				
	遺跡の性格	集落跡				
	検出遺構	奈良時代：竪穴建物跡1棟 平安時代：柱穴列1条、井戸跡7基、溝跡4条、土坑8基、焼土遺構1基、柱穴様ピット215基				
	出土遺物	縄文時代：土器、石器 奈良時代：土師器 平安時代：須恵器、土師器、白磁、木製品、石製品、鐵製品、鐵滓 江戸時代：陶器				

遺跡名	小勝田館跡	発掘調査年	26年度	発行年月	27年9月	
書名	秋田県文化財調査報告書第500集 小勝田館跡 一地方道路交付金事業（改築）一般県道大館能代空港西線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—					
内 容	遺跡の時代	縄文時代 平安時代				
	遺跡の性格	墓地 貯蔵場所 狩獵場 集落跡				
	検出遺構	縄文時代：土坑12基、フ拉斯コ状土坑3基、土器埋設遺構3基、陥し穴状遺構2基、溝跡1条、遺物集中地点3か所 平安時代：竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡1棟、土坑2基、特殊ピット4基 時期不明：焼土遺構1基、柱穴様ピット96基				
	出土遺物	縄文時代：土器、土製品、石器、石製品 平安時代：須恵器、土師器、土製品、石製品				

遺跡名	西板戸遺跡 窪遺跡	発掘調査年	26年度	発行年月	28年3月	
書名	秋田県文化財調査報告書第501集 西板戸遺跡—雄物川上流河川改修事業（西板戸地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書— 窪遺跡—雄物川上流河川改修事業（寺館大巻地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書II—					
内 容	遺跡の時代	鎌倉時代 室町時代 江戸時代				
	遺跡の性格	集落跡 墓地				
西板戸遺跡	検出遺構	鎌倉時代：井戸跡6基、カマド状遺構6基、土器溜まり2か所 室町時代：掘立柱建物跡1棟、柱穴列1条、井戸跡8基、カマド状遺構6基、土坑墓19基、火葬墓12基 鎌倉～室町時代：掘立柱建物跡3棟、柱穴列1条、井戸跡4基、カマド状遺構2基 江戸時代：掘立柱建物跡3棟、柱穴列5条、竪穴状遺構2基、木棺墓4基、土坑1基、溝跡1条 時代不明：掘立柱建物跡2棟、柱穴列1条、土坑17基、溝跡1条、柱穴様ピット127基				
		鎌倉～室町時代：陶器、青磁、石製品、木製品、鐵製品、鐵滓、錢貨 江戸時代：陶磁器、土人形、錢貨				
		遺跡の時代 縄文時代				
		遺跡の性格 墓				
窪遺跡	検出遺構	縄文時代：土坑墓1基				
		出土遺物 縄文時代：石器				

書名	秋田県文化財調査報告書第502集 遺跡詳細分布調査報告書	発掘調査年	27年度	発行年月	28年3月
内容					

書名	秋田県埋蔵文化財センター年報33（平成26年度）	発行年月	28年3月
内容			

書名	秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第30号	発行年月	28年3月
内容			

書名	講演会『十和田火山泥流と片貝家ノ下遺跡』	発行年月	28年2月
内容			

書名	平成27年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料	発行年月	28年3月
内容			

書名	横手盆地の三万年 第Ⅱ期 雄物川中・上流域の景観を復元する	発行年月	27年7月
内容			

書名	湯沢・雄勝の縄文化 一堀ノ内遺跡－	発行年月	27年10月
内容			

書名	片貝家ノ下遺跡 平成27年度調査 解説リーフレット①	発行年月	28年2月
内容			

書名	片貝家ノ下遺跡 平成27年度調査 解説リーフレット②	発行年月	28年3月
内容			

5 活用・普及事業

埋蔵文化財センターは、遺跡の発掘調査を中心業務としている。さらに、発掘調査成果をはじめ多くの文化財を活用して、秋田の歴史、地域の歴史を県民に発信するために、資料の公開・活用・普及事業を積極的に推進している。今年度も企画展、講演会、バスツアー、セミナー等の各種事業を展開した。

（1）秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

秋田県教育委員会及び市町村教育委員会等の実施した発掘調査成果を広く県民に公開し、埋蔵文化財の保護について理解を深めてもらうことを目的に、昭和56年度から報告会を開催している。

今年度は平成28年3月13日（日）、秋田県生涯学習センターを会場に開催し、特別報告2本を含む9本の報告と出土品、写真パネル等を展示した。参加者は242名で、配布資料に目を通し、メモを取りながら熱心に報告を聞いたり、報告内容について質問をしていた。展示会場でも写真や遺物を前にして質問をする姿が見られた。

また、同時開催した考古学体験教室でも、子どもから大人までそれぞれ興味関心を持って各種体験を楽しむ姿が見られ、盛況のうちに終了した。体験教室への参加者は130名であった。

【報告内容】 会場での報告に加え、出土品、写真パネル等も展示了。

- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| 1 平成27年度県内発掘調査の概要 | 利部修 中央調査班主任文化財専門員（兼）班長 |
| 2 史跡秋田城跡（秋田市） | 神田和彦氏 秋田市教育委員会 |
| 3 史跡払田柵跡（大仙市・美郷町） | 五十嵐一治 県教育庁払田柵跡調査事務所主任学芸主事 |
| 4 片貝遺跡（大館市） | 宇田川浩一 中央調査班副主幹 |
| 5 片貝家ノ下遺跡（大館市） | 村上義直 中央調査班副主幹 |
| 6 特別報告1「建築考古学からみる片貝家ノ下遺跡の埋没建物跡」 | 浅川滋男氏 烏取環境大学教授 |
| 7 金沢城跡（横手市） | 島田祐悦氏 横手市教育委員会 |
| 8 トクラ遺跡（東成瀬村） | 加藤朋夏 調査班文化財主査 |
| 9 特別報告2「八郎潟周辺の縄文時代晚期」 | 上條信彦氏 弘前大学准教授 |

【展示遺跡】 ※上記の報告、展示に加え、次の6遺跡の出土品、写真パネル等も展示了。

平影野遺跡（能代市） 土飛山館跡（大館市） 上揃遺跡（東成瀬村）

上谷地遺跡（由利本荘市） 滝沢城跡（由利本荘市） 井岡遺跡（由利本荘市）

なお、会場となった秋田県生涯学習センターでは、「平成27年度秋田県内発掘調査成果展」を3月15日（火）～4月10日（日）まで1階玄関ホールで開催し、今回の報告会で使用した遺跡の写真や構配図等を展示了。



報告会場の様子



体験会場の様子

(2) 遺跡見学会

埋蔵文化財センターでは、教育普及活動の一環として遺跡見学会を実施している。発掘調査の成果を、地元をはじめ広く県民の方々に見ていただくことで、郷土の歴史と埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうことを目的にしている。今年度は、片貝遺跡（大館市）とトクラ遺跡（東成瀬村）で実施した。現地では、発掘調査で見つかった遺構の公開や、出土した土器や石器等を展示し、調査担当者が解説を行った。さらに、片貝家ノ下遺跡（大館市）の確認調査では、屋根の痕跡が残った平安時代竪穴建物跡が国内で初めて発見され、2日間の見学会を実施した。また11月5日（木）と11月14日（土）には報道発表を行った。

遺跡名	日時	公開内容	参加者
片貝遺跡 （大館市）	8月1日（土） 13:30～15:30	縄文時代の狩猟場、古代の集落跡（竪穴建物跡、柵列跡、墨書き土器）	132名
トクラ遺跡 （東成瀬村）	10月4日（日） 13:00～15:00	縄文時代の石器製作跡（石器集中部、石槍、トランシェ様石器、縄文土器）	54名
片貝家ノ下遺跡 （大館市）	11月14・15日 （土・日） 13:00～15:00	古代の集落跡（シラスで覆われた竪穴建物跡、屋根の痕跡が残る竪穴建物跡、焼土遺構、溝跡、土坑、建築部材、木製品、土師器、須恵器）	620名



片貝遺跡



トクラ遺跡



片貝家ノ下遺跡



片貝家ノ下遺跡

(3) 学校（教育）サポート

① セカンドスクール

ア) 利用状況

学校	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校	合 計
利用件数	24	2	7	0	33
利用人数	568 名	5名	188 名	0 名	761 名

イ) 活動の具体例

- 1) 縄文土器や石器に触れて用途等を学ぶ体験
- 2) 大昔の人々の知恵に学ぶ「石器づくり」
- 3) 特別展示室や整理作業室の見学
- 4) 地域の遺跡や文化財の学習を支援する「授業サポート」
- 5) 発掘現場の見学



豊岡小学校 6年生

ウ) 平成27年度の成果



横堀小学校 6年生

展示見学と土器や石器に触れて用途等を学ぶ体験をセットにした学習を中心多く利用があった。また、センター利用の学校のほとんどが石器づくりを活動に加えている。今年度は中央調査班に隣接する栗田養護学校と連携し、中学部1年生の「栗田の縄文プロジェクト」学習で講話や体験学習の支援を行う等、特別支援学校の利用を促進することができた。

② ボランティア・職場体験（インターンシップ）

平成18年度からセカンドスクール的利用の一環としてボランティア活動や職場体験（インターンシップ）の受け入れを始め、今年度は、小学校2件46名、中学校1件2名の利用があった。

ボランティアは社会貢献や社会参加の活動を通じて豊かな人間性を育むことをねらいとし、職場体験（インターンシップ）は職業に関する理解を深めることを目的として行っている。

③ 出前授業

今年度の出前授業は小学校6件、特別支援学校5件であった。出前授業は、基本的に普段埋蔵文化財センターで行っている「土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験」と「地元の発掘調査成果を元にした遺跡や出土品の展示・説明」を組み合わせた授業で、縄文時代を中心に古代から中世にかけての地域の歴史を扱った。出土品を実際に手に取り、地元にも多数の遺跡があることを知ってもらうことによって、児童・生徒の、地域の歴史や文化財への興味・関心を深め、その後の歴史学習に対する意欲を高めることを目的としている。



栗田養護学校中学部1年生



子吉小学校6年生



米内沢小学校6年生

（4）主催事業

① 企画展

本年度の企画展は、「横手盆地の三万年」をテーマとし、埋蔵文化財センター特別展示室を会場に平成27年4月1日（水）～平成28年3月6日（日）の期間開催した。

今回の企画展では、会期途中で展示遺物や解説・写真パネル等をほぼ総入れ替えすることとし、第Ⅰ期「横手盆地の三万年」「横手市神谷地遺跡の縄文文化」（会期：4月1日～6月21日）、第Ⅱ期「横手盆地の三万年」「雄物川中・上流域の景観を復元する」（会期：7月4日～平成28年3月6日）とサブタイトルを付した構成をとった。

第Ⅰ期は、横手市教育委員会が平成24・25年に発掘調査を行った神谷地遺跡を取り上げ、主に縄文時代中期の竪穴建物（住居）跡出土の縄文土器の展示を通して、縄文集落（ムラ）の様相を紹介する展示とした。このなかには、「土器の変化と炉の移り変わり」として70棟を超す住居跡の炉（いろ



企画展展示解説の様子

り）と土器の形や文様の変化に着目した展示、神谷地の縄文人が使用していたアスファルト・漆容器の遺物展示も行った。

第Ⅱ期は、雄物川中・上流域の景観をキーワードとする通史的展示とした。第1部は“雄物川舟運と多彩な陶磁器”として近世を、第2部“城館・集落・寺院”として中世、第3部“律令国家と出羽国”として古代、第4部“北と南の交差点”として古墳・飛鳥時代、続縄文期、弥生時代、第5部“華ひらいた縄文化”

として縄文時代、第6部“良質な石材との出会い”として旧石器時代をまとめ、歴史を逆行する形での展示構成とした。展示遺跡総数は30、遺物等の総数は約600点である。期間中の入館者数は、第Ⅰ期421名、第Ⅱ期1,271名、合計1,692名であった。

② 講演会

本年度の講演会は、「縄文・弥生の道、古代の道」をテーマとして9月6日（日）に秋田県生涯学習センター3階講堂を会場として開催した。演題・講師は次のとおり。

「縄文～弥生時代における人・モノの動き」

国際教養大学アジア地域研究連携機構 助教 根岸洋氏

「古代の道 一奈良・平安時代の秋田と人々の暮らしー」

山形大学基盤教育院 深教授 荒木志伸氏

根岸氏の講演は、同氏が横手市平鹿町出身であることから、はじめに自己紹介や専門分野についての説明に続いて、

1. 先史時代の人・モノの動きとは
2. 生活圏、移動圏における人・モノの動き
3. 遠隔地由来のモノの動き
4. 人間集團の動き

としてパワーポイントを用いた講話をを行っていただいた。このうち、遠隔地由来のモノの動きとして、水銀朱については主に北海道日高産の朱が縄文時代の後半期に秋田を含む東北地方北部に運ばれていることが判明したとの報告があった。

荒木氏の講演は、考古学及び文献史学の立場から、

1. 律令制下における出羽国と秋田



講演中の根岸洋氏



講演中の荒木志伸氏

2. 古代道と律令国家の政策
3. 秋田県内の道路関係遺跡と諸問題
4. 出羽北半の道路をめぐる諸問題
5. 出羽南半の道路関係遺跡
6. 出羽国を襲った災害と交通

として、豊富な資料（地図、写真、図面）を用いての講話であった。にかほ市清水尻II遺跡で確認された道路遺構については、「6m前後幅の駅路は全国的にも実例があり、考古学的な観点からは東山道との仮定と矛盾しない」との解釈も披露された。

参加者は159名であった。

③ ふるさと考古学セミナー

企画展『横手盆地の三万年』や出張展示に連動させた全3回のセミナーである。

第1回『大仙・横手の縄文文化』

会場：秋田県埋蔵文化財センター第1研修室

期日：7月25日（土）

参加者：15名

講師：榮一郎（秋田県埋蔵文化財センター）

横手盆地の縄文文化に焦点をあてた講話である。最初に「縄文文化と縄文時代」として年代

測定法の高精度化により、従来の縄文時代の年代観・縄文文化觀に変化が起きていることや、縄文文化の世界史の中での位置づけについての概論が披露された。次いで、横手盆地内の大仙市、横手市、美郷町に所在する縄文遺跡のうち主に当埋蔵文化財センターが発掘調査を行った遺跡を取り上げ、住居や集落、その特徴についての発表がなされた。同会場には発表遺跡の出土遺物の展示もあり、これら遺物の実見と説明も加えられた。当日は、あいにくの大雨で参加者は少なかったものの、参加者からの質問等もあり充実したセミナーとなった。

セミナー終了後、特別展示室に移動し、開催中の企画展『横手盆地の三万年』第Ⅱ期「雄物川中・上流域の景観を復元する」をギャラリートークを交えて見ていただいた。

第2回『横手盆地の須恵器生産』

会場：秋田県立近代美術館6階研修室

期日：9月12日（土）

参加者：22名



会場に集まつた多くの聴講者



第1回セミナーの様子

講師：利部修（秋田県埋蔵文化財センター）

第2回出張展示「ふるさと村の地下から現れた古代」と連動させたセミナーである。

セミナー会場である近代美術館は、「秋田ふるさと村」内にあり、ここは平成2年に古代の須恵器窯跡等が発掘調査された場所にあたる。本年度は調査から25周年となることから、出張展示とあわせて秋田ふるさと村内の遺跡を取り上げることとした。

講話では、ふるさと村内遺跡の発見の経緯や事前調査についての説明の後、須恵器窯跡



第2回セミナー遺物解説の様子

の構築と構造についての詳細な報告がなされた。次いで須恵器窯で生産された多彩な器種とその特徴についても図面を用いた説明が行われた。講話の終盤では、持参した遺物を参加者に手にとって見ていただいた。

その後、同所5階の「ふれんどりーギャラリー」で開会中の出張展示「ふるさと村の地下から現れた古代」をギャラリートークを交えて見ていただいた。

第3回『湯沢・雄勝の縄文文化』

期 日：10月17日（土）

会 場：湯沢生涯学習センター

参加者：45名

講 師：小林克・加藤朋夏（秋田県埋蔵文化財センター）

第3回出張展示『湯沢・雄勝の縄文文化』と連動させたセミナーであり、湯沢市教育委員会との共催により開催した。講話と座談、展示遺物解説からなる。

講話では、加藤が湯沢市堀ノ内遺跡の発掘



第3回セミナーの様子

調査成果を基にしながら、埋葬や「もの送り」に見られる儀礼や祭祀等を中心に、縄文時代の暮らしや社会、地域的な特色等について概観した。座談では、最初に小林が湯沢市秋ノ宮のサケ石等に見られるような縄文時代からの日本人とサケとの関わりについての話題提供を行った。続いて、小林と加藤でアイヌ民族や諸外国の民俗例との共通点等をめぐり討論に入った。会場から多くの質問が發せられ、質疑応答がなされた。同会場内には、縄文時代前期の臼館跡や中期の堀量遺跡の遺物を展示し、その実見と解説も行った。

最後に、参加者には同所1階ホールで開催中の出張展示『湯沢・雄勝の縄文文化－堀ノ内遺跡－』を見せていただき、出土品から見た堀ノ内遺跡やこの時期の特徴等についてのギャラリートークを行った。

④ 出張展示

出張展示は埋蔵文化財を活用した展示を当センター以外の施設でも行い、より広く県民に公開することによって地域の歴史や文化、埋蔵文化財に対する理解を深めていただくことを目的としている。今年度は県内3会場で開催した。

第1回出張展示『にかほの古代・中世』

会期：7月11日（土）～8月23日（日）

会場：秋田県立図書館 2階 特別展示室

展示は、にかほ市両前寺・平沢地区周辺で発掘調査された前田表遺跡、前田表II遺跡、家ノ浦遺跡、家ノ浦II遺跡、阿部館遺跡、横枕遺跡、清水尻I遺跡、清水尻II遺跡、上谷地II遺跡の平安時代～鎌倉・室町・戦国時代の出土品や写真パネルを中心に構成した。

なお、会期中2度（7月11日、8月1日）にわたり展示解説も行った。来場者は4,753人であった。



第1回展示会場



展示解説の様子

第2回出張展示『ふるさと村の地下から現れた古代』

会期：8月29日（土）～10月12日（月・祝）

会場：秋田県立近代美術館 5階 ふれんど

りーギャラリー

展示は、秋田ふるさと村開村に先立って平成2年に発掘調査された富ヶ沢A遺跡、富ヶ沢B遺跡、富ヶ沢C遺跡、田久保下遺跡の、古代の須恵器窯跡群出土遺物を中心に構成した。併せて、発掘調査時の写真の下に、同方向から撮影した現在の施設等の写真を配置するパネル展示も行った。

会期中に同館で第2回ふるさと考古学セミナーを開催し、セミナー終了後にギャラリートークを行った。来場者は325人であった。



第2回展示会場

第3回出張展示『湯沢・雄勝の縄文文化一堀ノ内遺跡一』

会期：10月10日（土）～11月8日（日）

会場：湯沢生涯学習センター（湯沢市）

湯沢市教育委員会との共催事業として開催した。堀ノ内遺跡は湯沢市上間にあり、平成15～16年の発掘調査で縄文時代後期末葉から晩期前葉にかけての墓域が発見されている。その出土品を展示するとともに、写真パネルで遺構の様子や遺物の出土状況を紹介し、遺跡の特徴や地域的な特色、当時の暮らしや社会等について解説した。会期中に同会場で第3回ふるさと考古学セミナーを開催し、セミナー終了後に展示解説を行った。開催中553人の来場者があり、湯沢市教育委員会、湯沢生涯学習センターには広報や運営等で多大な協力をいただいた。



第3回展示会場



展示解説の様子

⑤ 古代発見！バスツアー

回	期日・参加人数	内 容 ・ コ ー ス
第1回	9月25日（金） 【参加者 25名】	県北の遺跡を探訪。ガイドはセンター職員が行い、伊勢堂岱遺跡では北秋田市教育委員会職員に解説をいただいた。
第2回	9月29日（火） 【参加者 24名】	・秋田駅東口→伊勢堂岱遺跡（北秋田市）→大館能代空港（昼食・休憩） →片貝遺跡（大館市）→上小阿仁村生涯学習センター→秋田駅東口 ※片貝遺跡では発掘調査の様子を見学。当センター職員が解説。
第3回	10月2日（金） 【参加者 19名】	県南の文化財を探訪。ガイドはセンター職員が行い、旧池田氏庭園は池田家顕彰会の方々に、荒川鉱山跡及び大盛館は、日本鉱業史研究会の進藤孝一氏に解説をいただいた。
第4回	10月6日（火） 【参加者 21名】	・秋田駅東口→旧池田氏庭園→埋蔵文化財センター（見学・昼食・休憩） →荒川鉱山跡→大盛館→秋田駅東口 ※見学地はすべて大仙市。

遺跡や史跡をバスで巡回し、郷土の歴史や文化財について理解を深めてもらうとともに、埋蔵文化財センターの活動を広く知ってもらおうという事業である。今年度は、秋田市発着で「県北の遺跡探訪コース」と「県南の文化財探訪コース」をそれぞれ2回実施した。

新聞・チラシ・ホームページで広報し、1～4回まで一括して参加者を募集した。各回中型バスを利用した25名の募集に対し、参加希望日を第1～4希望まで認め、各回の人数を調整した。

県北の遺跡探訪コースでは、環境整備中の国指定史跡伊勢堂岱遺跡と当センターが発掘調査を行っている片貝遺跡を見学した。伊勢堂岱遺跡では縄文時代後期の環状列石を中心に案内をいただき、史跡の特色や景観、世界遺産登録に向けた取り組み等について知ることができた。片貝遺跡では縄文時代の落とし穴や平安時代の竪穴建物跡等を見てまわったが、約15,000年前の十和田火山噴火の火碎流でもたらされた埋もれ木が多数見つかっており、それらも参加者の目を引いていた。



第1回伊勢堂岱遺跡の見学



第1回片貝遺跡の見学



第2回伊勢堂岱遺跡の見学



第2回片貝遺跡の見学



第3回旧池田氏庭園の見学



第3回埋蔵文化財センターの見学



第4回荒川鉱山跡の見学



第4回大盛館の見学

県南の文化財探訪コースでは、国指定名勝旧池田氏庭園、埋蔵文化財センター、荒川鉱山跡及びその資料を展示している大盛館を巡見した。旧池田氏庭園や荒川鉱山跡は地域の近代化遺産とも言えるものであり、大仙市と地元の方々によって進められている保存・整備・活用の一端を窺うことができた。埋蔵文化財センターでは企画展「横手盆地の3万年」を見学いただき、職員が解説をした。

⑥ ふるさと発掘 in 大館

本事業は、大館市教育委員会との共催で実施したものである。これは本年度、大館工業団地造成に伴い当センターが大館市比内町の片貝遺跡を発掘調査を担当することが契機となっている。発掘現場を利用した見学会や体験発掘、大館郷土博物館等での発掘調査速報展や関連する遺跡の出土遺物や写真パネルを掲示する出張展示を開催することとし、その事業名称を「ふるさと発掘 in 大館」とした。実施した事業内容は次のとおり。

ア) 体験発掘

片貝遺跡の発掘現場で大館市立西館小学校5年生と6年生による体験発掘を実施した。西館小学校は、片貝遺跡の南約1.5kmに所在する小規模校で、「地元の遺跡を地元の子どもたちにも触れてほしい」という大館郷土博物館職員の思いから、同校児童を対象とした実施に至ったものである。

実施日：8月27日（木）

対象者：西館小学校5年生22名、6年生24名（各引率教員等を含む）



西館小学校児童による体験発掘風景

なお、片貝遺跡での体験発掘は、大館市教育委員会・大館市教育研究所が主催する「子どもハローワーク」活動の一環としても実施され、当センターが協力した。

実施日：8月18日（火）

対象者：大館市内の小学5年生～中学2年生、計40名（引率教員等を含む）

イ) 片貝遺跡発掘調査速報展

発掘調査が行われている片貝遺跡の調査状況を中心に写真パネルの展示を中心として、7月18日（土）から大館郷土博物館ロビーを会場に開催した。展示の写真パネルは、およそ2週間毎に追加・入れ替えを行い、最新の発掘調査の様子や状況を掲示した。



片貝遺跡発掘調査速報展

ウ) 発掘された大館の遺跡

片貝遺跡の発掘調査に関連して、当センターが大館市内で発掘調査を行った遺跡の紹介を行う出張展示を「発掘された大館の遺跡」として開催した。ここには、大館市教育委員会が発掘調査を行った遺跡の資料も併設され、合同展示の様相を呈している。

期間：9月1日（火）～11月3日（火・祝）

会場：大館郷土博物館特別展示室

展示内容は、「第1部 釈迦内地区の遺跡」として釈迦内中台Ⅰ遺跡、狼穴Ⅱ遺跡、狼穴Ⅲ遺跡、坂下Ⅱ遺跡を、「第2部 比内・二井田地区の遺跡」として袖ノ沢遺跡、横沢遺跡を、「第3部 大館地区的遺跡」として土飛山館跡を紹介。



「発掘された大館の遺跡」展示会場

この展示室には7月から開会中の片貝遺跡発掘調査速報展を組み込む形で再構成して展示を継続した。期間中の入館者数は、片貝遺跡発掘調査速報展を含め2,072名であった。

エ) 発掘調査写真展「片貝家ノ下遺跡」

確認調査が行われた片貝家ノ下遺跡の調査成果を主に写真パネルで紹介した。会場と期間は次のとおり。

- ・大館市立比内公民館（1月16日～3月13日）
- ・大館郷土博物館（1月16日～3月13日）
- ・大館市立中央公民館（2月8日～2月28日）



大館郷土博物館での写真展の様子

なお、大館郷土博物館では1月16日～31日の期間限定として片貝家ノ下遺跡から出土した須恵器・土師器の遺物展示も行った。3施設合計の見学者数は、2,279名であった。

オ) 講演会「十和田火山泥流と片貝家ノ下遺跡」

大館市比内町の片貝家ノ下遺跡で発見された埋没建物跡を考古学、地理学そして火山学の立場から、現時点で考えうる情報を公表することで、米代川流域の古代社会・集落の様相を復元することを

目的とする講演会を2月14日（土）、大館市民文化会館で開催した。

報告・講演の演題と講師は次のとおり。

報告1 「片貝家ノ下遺跡の調査概要」	秋田県埋蔵文化財センター 村上義直
報告2 「米代川流域の埋没家屋」	秋田県埋蔵文化財センター 高橋 学
講演1 「地形環境からみる片貝家ノ下遺跡」	弘前大学教育学部教授 小岩直人氏
講演2 「十和田湖の噴火と片貝家ノ下遺跡」	群馬大学教育学部教授 早川由紀夫氏

なお、講演会会場のエントランスホールには、片貝家ノ下遺跡から出土した遺物と屋根が残る竪穴建物跡の断面写真を原寸大に引き伸ばしての展示も行った。

当日の参加者は240名であった。



講演中の会場の様子



展示会場の様子

（5）共催・機関連携等による普及事業

① 農業科学館まつり

7月12日（日）に開催された「平成27年度農業科学館まつり」に協力団体の一つとして参加し、「縄文時代の遊び・生活体験」のコーナーを設け、石器づくりと弓矢、文様染め（コースターづくり）体験を行った。猛暑にもかかわらず、親子連れを中心に延べ241人の参加者に各体験を楽しんでもらった。苦労しながらも次第にコツをつかんでいき、「おもしろかった」という感想をたくさんいただいた。中でも、弓矢体験や文様染め体験に何度も取り組む子どもの姿が多く見られた。他の参加団体の催し物とともに利用してもらい、埋蔵文化財センターの体験活動を多くの人に紹介することができた。



縄文文様染め



弓矢体験

② 土器に生ける秋の草花展

県立農業科学館との共催で、10月10日（土）～10月25日（日）まで開催した。今年度は縄文時代から中世までの各時代の土器10点及び関連するパネル資料を展示了。秋の草花は東大曲小学校6年生のみなさんに生けてもらつたが、大きさや形、文様や色等がそれぞれ異なる土器の特徴を生かし、バラエティーあふれる作品ができあがつた。



農業科学館展示会場

③ あきた県庁出前講座

あきた県庁出前講座は、県民の学びの機会として、県職員が県民の要請に応じて講師として出向き、さまざまな情報を提供して県事業等への理解を図ることを目的としている。埋蔵文化財センターも特長をいかした講座を用意している。

月 日	要請団体	内 容	番号	講 師	会 場
6月27日（土）	本荘郷土資料館	リアルタイム発掘調査最前線「払田柵跡の調査」 参加者 22名	172	払田柵跡調査事務所 主任学芸主事（兼） 班長 五十嵐一治	由利本荘市 市民交流学習センター
2月11日（木）	にかほ市両前寺自治会	リアルタイム発掘調査最前線「にかほ市両前寺周辺の古代遺跡」 参加者 33名	172	資料管理活用班 主任文化財専門員 (兼)班長 高橋 学	にかほ市 両前寺自治会館
3月6日（日）	比内町芸術文化協会 大館市立比内公民館	リアルタイム発掘調査最前線「片貝家ノ下遺跡からのメッセージ」 参加者 68名	172	中央調査班 副主幹 村上義直	大館市立比内公民館

④ あきたスマートカレッジ連携講座「発掘！考古ゼミ」

今年度より名称があきたスマートカレッジ連携講座となった、県生涯学習センターとの機関連携事業である。県の教育機関が連携し、相互に特徴を活かして活性化を図ることをめざしている。今年度も県生涯学習センターを会場に4回開催し、秋田市を中心に多数の受講者を得ることができた。講座をとおして、発掘調査による遺跡の概要を紹介したり、埋蔵文化財センターの活動等を紹介することができた。

回	期日	講演テーマ・参加人数	講師
第1回	11月13日(金)	土偶はなぜ腕を下ろしたか 【参加者 35名】	所長 小林 克
第2回	11月20日(金)	発掘調査速報① 大館市片貝遺跡 【参加者 34名】	中央調査班副主幹 宇田川浩一
第3回	11月27日(金)	発掘調査速報② 東成瀬村トカラ遺跡 【参加者 36名】	調査班文化財主査 加藤朋夏
第4回	12月4日(金)	十和田火山噴火1,100年 火山災害と古代集落の復興 【参加者 63名】	資料管理活用班 主任文化財専門員(兼)班長 高橋 学

(6) その他

① 所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績

年 度	25年度	26年度	27年度
所蔵資料貸出数	27件	18件	42件
キット貸出数	5件	2件	6件
ビデオ貸出数	0件	0件	1件
火起こし貸出数	2件	3件	1件

※所蔵資料貸出内訳

資料 種別	使用目的 (複数利用含む)		
	展示公開	書籍等掲載	研究他
遺跡出土品	14件	8件	3件
フィルム写真データ	0件	0件	0件
デジタル写真データ	8件	21件	1件
その他の	1件	1件	0件

② センター施設の開放と展示

見学者によりよく身近に埋蔵文化財を理解していただくために「いつでもギャラリートーク」を行っている。これは、平日の開館時間に来所された見学者に、要望に応じて専門職員がいつでも展示品の解説を行うというものである。さらに展示ケースを開けて実際の遺物に触れていただき、展示品を「見る」だけでなく、古の息吹をじかに「感じて」いただけるようにしている。ギャラリートークの所要時間は見学者の希望に合わせて15~30分程度である。また、企画展パンフレットや過去の印刷資料等も自由に持ち帰れるようにしている。

	開館時間	見学可能箇所
平日	9:00~16:00	特別展示室・第1収蔵庫(※)・整理室(※)・中央調査班展示室
土・日・祝日	9:00~16:00	特別展示室

(休館日：1月1日～3日、成人の日、建国記念の日、春分の日、12月28日～31日)

※は職員の案内によって可能

③ 図書整理・図書一般公開

当センターで発刊した報告書等や他県等から送付された報告書等を登録、配架し、図書の利用環境を整備した。また、全国遺跡資料リポジトリ事業における秋田県遺跡リポジトリ公開用電子データとして、奈良文化財研究所に今年度本センターで刊行した発掘調査報告書のP D Fデータを提供した。また、秋田県立図書館デジタルアーカイブ公開用電子データとして、平成26年度企画展パンフレット「払田柵跡調査40周年記念 扟田柵跡－巨大城柵の実像に迫る－」等のP D Fデータを同図書館に提供した。これらのデータは、次のU R Lで公開されている。

奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」アドレス：<http://sitereports.nabunken.go.jp/ja/>
秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」アドレス：<http://da.apl.pref.akita.jp/maibun/>

（7）講演・研究論文等

（平成27年5月）

〈発表〉加藤朋夏「秋田県のアスファルト関連資料」「第5回アスファルト研究会」

〈報告〉高橋 学「豊穴・掘立柱併用建物」「季刊考古学」第131号 雄山閣

〈論文〉小林 克「秋田県内陸北部、鹿角・小坂地方における縄繩期の土器群」「先史考古学研究」第12号

（平成27年6月）

〈投稿〉高橋 学「マイ・フェイバレット・サイト134 扉田柵跡～秋田県大仙市・美郷町」「アルカ通信」第141号

（平成27年7月）

〈論文〉高橋 学「木都の誕生－秋田県洲崎遺跡の発掘が及ぼしたこと－」「木材の中世」高志書院

〈投稿〉加藤朋夏「マイ・フェイバレット・サイト135 堀ノ内遺跡～秋田県湯沢市」「アルカ通信」第142号

（平成27年10月）

〈発表〉高橋 学「松岡経塚はなぜ湯沢の地に造られたのか」「平安文化へのいざない－松岡・構え森と経筒－」松岡平安の郷史跡保存会「歴史座談会」

（平成27年11月）

〈速報〉村上義直「片貝家ノ下遺跡の埋没建物跡」「火山災害と古代社会」秋田考古学協会設立60周年記念研究会資料

〈報告〉高橋 学「米代川流域の埋没家屋」「火山災害と古代社会」秋田考古学協会設立60周年記念研究会資料

（平成28年1月）

〈論文〉小林 克「本州日本海沿岸北部における縄紋時代後半期の宗教儀礼」「古代」第138号 早稲田大学考古学会

（平成28年2月）

〈紙上報告〉村上義直・山田祐子「片貝家ノ下遺跡」「第42回古代城柵官衙遺跡検討会資料」「古代城柵官衙遺跡検討会

- 〈寄稿〉村上義直「発見 片貝家ノ下遺跡1 埋没建物」『秋田魁新報』2月1日付
〈寄稿〉山田祐子「発見 片貝家ノ下遺跡2 屋根が残った理由」『秋田魁新報』2月2日付
〈寄稿〉宇田川浩一「発見 片貝家ノ下遺跡3 墨書き器」『秋田魁新報』2月5日付
〈寄稿〉利部 修「発見 片貝家ノ下遺跡4 復興」『秋田魁新報』2月8日付
〈寄稿〉小林 克「発見 片貝家ノ下遺跡5 今後の発掘調査」『秋田魁新報』2月9日付

6 運営協議会

第1回 平成27年6月18日（木）

委 員：石郷岡誠一委員（委員長）、佐藤厚子委員（副委員長）、根田好倫委員、須田喬委員、和田美砂子委員、中山厚子委員、高橋秀夫委員

事務局：小林所長、佐々木副所長、柴田総務班長（進行）、榮調査班長、利部中央調査班長、

高橋資料管理活用班長、堀川学芸主事（記録）

所長の挨拶では、センター設立から35年を迎えるとしているが、設立当初と比較すると年間の発掘調査面積はかなり減少の傾向にあること、その一方で、これまで30年以上にわたって蓄積された資料をもとにした活用事業については、学校教育との連携や市町村、地域との連携によってますます需要が高まっている旨の話があり、その後、新たに選出された石郷岡委員長から、文化財の活用を町づくりに生かしたり、文化の面から埋蔵文化財を活用しようといった方向性を重視しながら、この運営協議会でさまざまな提言をしながら文化財行政に尽力していきたいという挨拶があった。続いて事務局からの平成27年度の事業計画（発掘調査、活用事業）についての報告の後、企画展の見学を経て「関係機関、地域との連携と今後の展望」を主題として協議に入った。委員からの主な提言については以下の通り。

- ・展示や施設を見学できてよかった。マスコットキャラクターをもっと前面にアピールしてほしい。
遺物に触れるができるのはありがたい。貸し出しキットもP Rして広めてもらいたい。
- また、小学生は縄文時代をイメージすることが難しい。イメージしやすいパネル等の展示も検討はどうか。
- ・昨年度、小中学校との連携ということで社会科教育研究会や校長会への働きかけを提案したが、これに加えて中学校に向けて職場体験の受け入れをアピールする。
- また、大仙市教育委員会との連携ということで、教員の初任者研修での施設見学にセンターを入れてもらうようにする。さらに、10年経験者研修も受け入れができると伝えていく。
- ・今年度、大館市で発掘体験の機会を設けたことはよかった。将来的に学びを深める子どもを育成するためには体験活動が重要である。自分の感覚で古代を感じたりすることはとても大切なことで、今後もこのことを意識して機会を設定してもらわればありがたい。
- ・センター内では、バックヤードを見学する機会があつてもよい。
以前、ホームページの改善を要望したが、見やすくなっている。セカンドスクールの日程を入れたのがよい。学校ではこれを参考に予定を組むことができる。口コミを選択時の基準や判断材料にしていることが多いので、学校からの手紙の内容等をもとにした具体的な口コミが載っている

とイメージしやすい。

- ・国際教養大の学生がセンターを見学する機会を計画してはどうか。地域の歴史について展示を見学したり、研究機関としてのセンターの活動を知ることは有意義である。

委員からの提言を受けて、関係機関や地域との連携については、将来的なビジョンを明確にしながら進めていくこと、また、学校教育との関わりについては、小さなことでも可能なことから着手していくことを伝え、本年度1回目の協議会を終了した。

第2回 平成28年2月9日（火）

委 員：石崎岡誠一委員（委員長）、佐藤厚子委員（副委員長）、根田好倫委員、須田喬委員、

和田美砂子委員、高橋玲子委員、山崎裕子委員、中山厚子委員、工藤侃委員、高橋秀夫委員
事務局：小林所長、佐々木副所長、柴田総務班長（進行）、榮調査班長、利部中央調査班長、

高橋資料管理活用班長、小徳学芸主事（記録）

会議の冒頭、所長より今年度大きな話題となった大館市の片貝家ノ下遺跡の確認調査、及び地域活性化を目指す秋田大学COC事業との官学連携についての報告があり、「文化」と名の付く行政機関として、県全体を含め、地域や文化との関わりの中でどのようにセンターを運営していくべきか、各委員の意見を伺いたい旨の挨拶があった。続いて石崎岡委員長より、全体として発掘調査が減少傾向にある中で、今年度の片貝家ノ下遺跡での調査で大きな成果があったことが述べられ、この協議会では次第にある3点の協議題について活発な意見や提言をお願いしたいという挨拶があった。その後平成27年度の事業報告と平成28年度の事業計画案について調査班・資料管理活用班の各班長から報告があり、企画展の見学を終えた後に委員長の進行で協議に入った。

協議題：（1）平成28年度活用事業計画について

（2）活用事業の関係機関、地域との連携について

（3）平成28年度に向けて委員からの提言

委員からの主な提言については以下の通り。

- ・各事業について、年度ごとに参加者の推移が分かる資料がほしい。それらの比較によって見えてくるものもあると思う。
- ・大館市教委との連携事業について、今年度大館市の片貝遺跡での発掘体験に参加した子どもたちから、驚きや発見の感想が多く寄せられた。来年度も都合がつけば発掘等を体験できるような企画があつてもよいのではないか。
- ・埋蔵文化財センターに来ればこのようなものがある、このような学習ができるということを、ホームページでPRするとよい。中小学生が利用するのは4~5月が中心であるが、それ以外の時期でも学校への出土品の貸し出しを積極的に行うなどして利活用を推進してほしい。
- ・農業体験等の宿泊体験の受け入れ先に、払田柵跡や埋蔵文化財センターの利用をPRしてはどうか。
- ・地域活性化の視点から、国際教養大学との連携も進めてはどうか。例えば大学の図書館で出張展示等を行うことは可能ではないか。
- ・今年度は栗田養護学校の「食」をテーマとした学習の利用があったが、大仙市の学校ではJAと

連携し、食についての学習を行っている。食の面でJAとも連携できるのではないか。また、4月～5月以外の児童・生徒の利用策として、農業科学館まつりで実施しているような体験活動が夏季休業中にもあればよい。

- ・センターの利用について、教員の研修等での利活用をPRし促進してほしい。施設や展示品の内容や活用方法が教員に周知できれば、学習での利用の仕方が広がる。
- ・地域活性化については、さまざまな情報発信の仕方があると思われる所以、今後さらに検討してほしい。文化財を自転車で巡るサイクリングツーリズムの中に、古四王神社等も加えられるのではないか。
- ・ホームページの写真の中には拡大して見たいものもあるので、それができるような工夫をしてほしい。また、事業のPRは1回だけだと定着しないので、こまめに情報を発信してほしい。歴史遺産を活用した地域の活性化については、現在「日本遺産」の認定等もあり、県内の動きを見ながらそれらとタイアップしていくことも考えられる。

以上の提言を受け、発掘調査だけでなく、いろいろな方面と連携できるようなセンターの位置づけを考えいくとともに、今後も積極的な情報を発信していくという方針を事務局から提示し、本年度の協議会を終了した。

V 平成27年度研修事業

1 研修受け入れ

(1) 教員10年経験者研修

実施日：平成27年7月28日（火）～7月30日（木）

研修者：鹿角市立花輪第二中学校教諭1名

実施日：平成27年7月30日（木）～8月3日（月）

研修者：大仙市立協和小学校教諭1名

(2) 中学生職場体験

実施日：平成27年8月5日（水）～8月6日（木）

研修者：大仙市立仙北中学校2年1名

2 職員研修

(1) 職員技術研修会

「平安時代大館地域の土器様相」に関する研修

平成27年度の職員技術研修会は、8月21日（金）に片貝遺跡並びに大館郷土博物館を会場にして、「平安時代大館地域の土器様相」をテーマに実施した。大館市の片貝遺跡では、平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が検出され、竪穴建物跡からは灯明に使用した土師器杯や、「寺」の字が書かれた墨書き土器が出土した。さらに、片貝遺跡と近くの片貝家ノ下遺跡では、平成28年度にも調査が予定されている。

こうしたことから平成27年度の技術研修を、米代川流域の特に大館地域の古代に焦点を絞って実施することにした。午前中は片貝遺跡で、調査担当者による平安時代の竪穴建物跡や遺物出土状況の説明があった。午後は大館郷土博物館に会場を移して、同館職員の嶋影壮憲氏の「古代大館盆地の土器様相と画期」と題した講義を受けた。次に嶋影氏より館内展示の古代資料を解説してもらい、さらに特別展示室では米代川流域の古代土器を実見しながら検討を行い、理解を深めた。



技術研修参加者



竪穴建物跡の説明



講義の様子



大館郷土博物館での遺物の検討会

研修には、当センター職員20名、県教育委員会生涯学習課文化財保護室2名の他、県内市町村の埋蔵文化財担当者12名が参加した。さらに弘前市教育委員会の担当者1名が参加し、古代の建物跡の調査や出土土器に対する関心の高さが窺われた。

平成26年10月には、北東北古代集落遺跡研究会より平安時代を対象にした『北東北世界の実体的研究』が刊行され、米代川流域についても言及されている。今後の発掘調査成果と研究によって、米代川流域の古代史像がより深まっていくものと思われる。その意味で、今回の古代集落の巡査と大館盆地を中心とした古代土器の検討は、時宜を得た研修内容であった。

（2）防災・避難訓練、交通安全講話【本所・中央調査班】

実施日：平成27年6月29日（防災・避難訓練／本所、中央調査班）

実施日：平成27年4月24日、12月11日（交通安全講話／本所）

実施日：平成27年5月7日、平成28年1月14日（交通安全講話／中央調査班）

VI 職員名簿

職名	氏名
所長	小林 克
副所長	佐々木 康至

總務班

副主幹（兼）班長	柴田 真希
主査	齊藤 憲治
主任	今田 陽子
非常勤職員	柴田 陽一郎

調査班

主任文化財専門員（兼）班長	榮 一郎
（兼）主任学芸主事	五十嵐 一治
学芸主事	山村 剛
文化財主査	栗澤 光男
文化財主査	加藤 明夏
文化財主事	伊豆 俊祐
文化財主事	赤星 純平
文化財主事	富樫 那美

中央調査班

主任文化財専門員（兼）班長	利部 修
主査	鈴木 菜穂子
副主幹	宇田川 浩一
副主幹	村上 義直
学芸主事	築瀬 圭二
学芸主事	関向 昌之
文化財主査	高橋 忠彦
文化財主任	山田 祐子
文化財主事	巴 亜子
非常勤職員	泉 明

資料管理活用班

主任文化財専門員（兼）班長	高橋 學
学芸主事	小徳 晶
学芸主事	山田 徳道
学芸主事	佐藤 淳
学芸主事	堀川 昌英

秋田県埋蔵文化財センター年報34
(平成27年度)

発 行 平成28年6月

秋田県埋蔵文化財センター

〒014-0802 大仙市払田字牛嶋20番地

電 話 (0187) 69-3331

F A X (0187) 69-3330

[URL] [http://www.pref.akita.jp/
gakusyu/maibun_hp/index2.htm](http://www.pref.akita.jp/gakusyu/maibun_hp/index2.htm)

